

## なし黒星病の発生が多くなっています ～ 発病部位の切除と薬剤防除を徹底してください ～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

6月中旬の巡回調査における果そう葉の発病葉率は0.24%（平年0.02%）（図-1）、発生地点率は27.3%（平年8.1%）でいずれも高かった。果実の発病果率は0.18%（平年0.05%）、発生地点率27.3%（平年8.7%）でいずれも高かった。

6月28日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。

以上のことから、今後2次感染により増加する可能性があるため、注意が必要である。

### 2. 防除対策

- 1) 発病部位（図-2、3）は切除して園外へ搬出し、土中埋没するか焼却処分する。
- 2) 薬剤がよくかかるよう、7月上旬まで、新梢の摘心と徒長枝の剪去を徹底する。
- 3) 有袋栽培の場合は、薬剤を散布した後の袋かけを速やかに行う。
- 4) 薬剤は表-1から選択し、散布液量は300L/10a以上とする。また、収穫前日数に十分注意して使用する。スピードスプレーヤーで防除する場合は、1列おきではなく全列を走行し、かつ低速で丁寧に散布する。
- 5) 薬剤の散布は10日間隔で行う。降雨が続くと予想される場合又は発病の見られる園地では、散布間隔を7日とする。幸水は本病に弱いので特に注意して防除する。

### 3. 資料

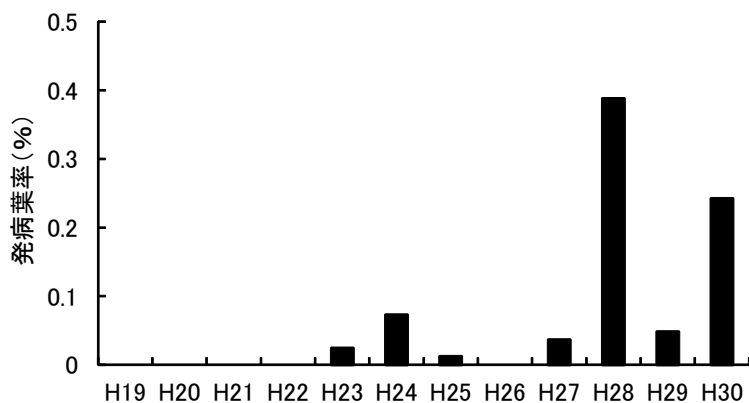


図-1 6月巡回調査における果そう葉率の年次推移



図-2 葉の病斑



図-3 果実の病斑

表-1 なし黒星病の防除薬剤

分類	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	各成分の総使用回数
D・A	オキシラン水和剤	600倍	収穫3日前	9回以内	アイ
D	オーソサイド水和剤80	800倍	収穫3日前	9回以内	イ
O・A	ベフキノン水和剤	1,000倍	収穫45日前	4回以内	アウ

A：銅剤 D：ポリハロアルキルチオ剤 O：グアニジン系剤

ア：有機銅（12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内）） イ：キャプタン（9回以内）

ウ：イミノクタジン（5回以内（塗布剤は2回以内、液剤は1回以内））

【問合せ先】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
天王分場班	TEL	018-878-2251
掲載HP <a href="http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>		